

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：千葉大学理学部物理学科

学年：3年

留学先大学：University of Göttingen

現在の学期：Winter 25/26

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	12:15-13:45 ドイツ語 16:15-18:00 From Vision to Action 神経科学の講義 ラボ
火	8:15-10:00 From Vision to Action 神経科学のセミナー ラボ
水	9:30-10:30 研究室ミーティング 12:15-13:45 ドイツ語 ラボ
木	ラボ
金	ラボ
土・日	ラボまたはお出掛け

履修科目や近況について

履修科目は興味のあるものに絞り、ドイツ語と神経科学のクラスを取っています。

ドイツ語の授業はレベル別に分かれており、初級クラスを受講できてよかったです。驚いた点として、ドイツ語のクラスではどのレベルでも一学期ごとにコピー代として3ユーロが請求されます。

神経科学の授業は大学院相当で、専門用語が多いため、文明の利器である ChatGPT も活用しながら受講しています。授業では積極的に質問・発言する学生が多く、日本との違いを強く感じます。さらに、ゲッティンゲン大学では履修登録が先着順で、期末試験の登録は修登録とは別手続きになっており、後者を行わないと単位が出ないとのことです。

授業以外では、神経物理学研究室で学生インターンをさせていただいており、現在は主に神経科学を学んでいます（もう少しで研究が始まりそうですが…）。ありがたいことに、細胞の培養液交換や、生後間もないマウスの頭蓋から脳を取り出す作業を経験する機会もいただいている。これまで数式やシミュ

レーションが中心だったため非常に新鮮で楽しい一方、繊細な手技が求められるため、自分に向いていないかもしれませんと感じることもあります。

生活面では、タンデム（言語交換交流会）を通じて現地の日本人やドイツ人と親睦を深め、遊びや小旅行で充実した日々を過ごしています。寮では 6 人で共同生活をしており、特に問題なく過ごせています。

写真一枚目：市役所前の広場。かのオッペンハイマーが博士課程を終えた地。第二次世界大戦当時ゲッティンゲンは核理論研究の聖地であった名残りだろうか、Hiroshimaplatz という住所が存在する。

写真二枚目：恐らくドイツの伝統料理。ドイツで初めて参加したゲッティンゲンでの 3 日間の認知神経科学の学会での二日目の夕飯であった。驚くことになると参加費は全て無料で米国の有名教授も招待してこの規模だったので、ドイツの科学資金力の強さを痛感した。

写真三枚目：キャンパス内、研究室長の犬。ドイツでは犬をリードに繋がない人も多く、また職場や学校によっては、犬連れ込んでも平気だ。まさに、犬先進国である。



